

あがつま



『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

(ヨハネによる福音書 15章5節)

♪ 讃美歌を歌おう ②⑤

『球根の中には』

讃美歌 21-575 番

こどもさんびか改訂版 135 番

イースターの季節になる

と、『球根と花』 冬と春

『沈黙と歌』 といった対比

の中で『死と復活』が歌わ

れるこの讃美歌が無性に歌

いたくなります。

この讃美歌は、アメリカ

の讃美歌作家ナタリー・ス

リース (1930-92) によって作

詞作曲されました。彼女は

幼い娘に、『讃美歌は退屈

だから歌わない』と言われ

たことから讃美歌を手がけ

るようになったそうです。

友人の死をきっかけに生

み出されたというこの歌は、

キリスト教における復活信

仰の核心を、見事に表現し

ています。それは、『死

の先に』のち『』がある

いうことです。

球根はやがて花となり、

さなぎから成虫が羽化し、

寒い冬はやがて暖かな春に

移り変わる。そのような劇

的な変化を『当たり前』に

引き起こしておられる神の

存在に目を向けたとき、『お

それは信仰に、死は復活に』

変えられるのです。

人間には『死』の先に何

があるのかを知ることには

きません。『いのちの終り』

を『いのちの始め』へと変

えてくださる神への信頼が

『その日、その時を』ただ神

が知る』のだと歌われます。

この歌はスリース自身に

よって Hymn of Promise (約束の

讃美歌)との題がつけられて

おり、歌集によってはその

題で掲載されていることが

あります。

稲垣真実